

12月

【収藏品紹介】

- ① Les Merveilles de L'Exposition de 1889' Librairie illustrée (発行)' 1886年 (F-045)  
 ② Revue de L'Exposition Universelle de 1889' Motteroz (発行)' 1886年頃 (F-046)

来年・令和7年4月に「EXPO2025 大阪・関西万博」が開幕します。今から54年前、1970年開催の大阪万博では、盆栽と水石の大規模な展覧会が行われて話題を集めました。100年以上遡る19世紀後半の万国博覧会にも盆栽が出品されていたことをご存じでしょうか。

当館は、1878年と1889年に

フランスで開催さ

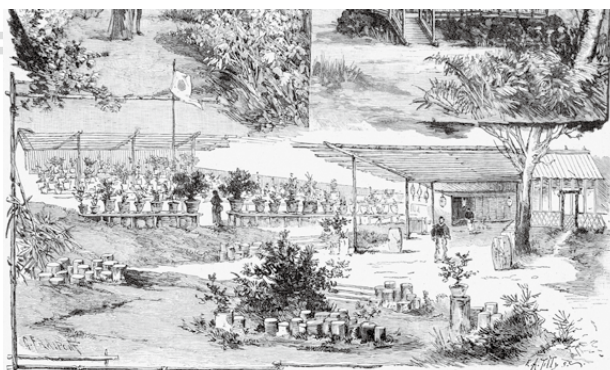
れた第3回・4回

パリ万博関係資料

を所蔵していま

す。なかでも、

1889年(明治



①Les Merveilles de L'Exposition de 1889 挿絵(部分)



Le pavill

②Revue de L'Exposition Universelle de 1889 挿絵(部分)

22)の第4回パリ万博の際に現地で刊行された評論記には盆栽展示の挿絵があり、貴重なビジュアル資料と言えます。

1889年のパリ万博では、モニユメントとしてエッフェル塔が建設されたシャン・ド・マルス公園のセーヌ川対岸にあるトロカデロ公園の一面に、笠原恵(1857-1916)という横浜の貿易商が個人で出品した園芸展示が催されました。

日本政府の記録や、パリで刊行された様々な評論の記述などを照らし合わせると、展示の子細な様子をつかえます。

会場の全景図(①)を見ると、場内の道沿いに設えた棚や切り株の上にたくさん

の盆栽が並べられています。奥には東屋風の展示館が立ち、その館内を

描いた図(②)では、

ねじり鉢巻きに法

被姿の若き職人が

座敷の縁に腰かけ、

百合らしき植物の

手入れをしています。この人物は、笠原恵に同行して渡仏した、畑和助という植木職人と考えられています。また23歳の青年であった畑は、この後、ジャポニズムを好む富裕層のお抱え庭師としてフランスで活躍することになります。

この園芸展示は、輸出を念頭に置いた植物の鉢物を主役とする展示でした。百合や蘇鉄など江戸時代以来の園芸植物をはじめ、様々な草木の盆栽が出品された笠原の展示は好評を博し、金賞の栄誉を得ました。とりわけパリの人々の心を掴んだのは、松や杉、檜などの松柏盆栽であったようです。同書をはじめ現地の論評では、樹木の生長をコントロールし、小さな鉢の上に巨木の姿を圧縮して表現する技術の高さに感嘆の声が寄せられています。

日本側にとっても、世界に通用する盆栽の可能性をはっきりと認識するきっかけになったのではないのでしょうか。

(当館主査 菅原千華)